

筑波大学新聞

第300号

編集責任 筑波大学新聞
編集代表 福原直樹
TEL: 029(853)2040・6699
E-mail: shinbun@sakura.cc.tsukuba.ac.jp
月刊

発行所 筑波大学
茨城県つくば市
天王台1-1-1

紙面から

北条で竜巻発生
パイオカフェ
つくばピアノ
つくば芸術祭
本紙記者ルポ
ラブレール日本セvens

竜巻 なぜ起きた
筋肉がつくしくみについて
同世代間教育活動に感謝状
初夏に芸術の花 咲く
セグウェイに乗ってみた
去年の雪辱を晴らし優勝

11 10 9 4 3 2

竜巻つくばを襲う

北条地区に甚大な被害

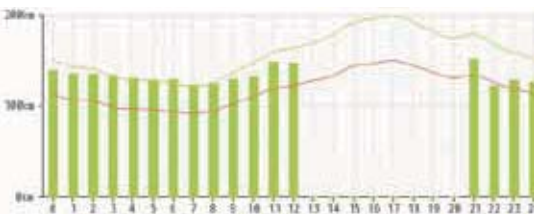


竜巻で電柱が倒れるなど、大きな被害を受けた北条地区

上空に強い寒気が入り、大気の状態が不安定になった5月6日、つくば市を中心に北関東各地で突風による被害が発生した。同市北条地区では12時45分頃、竜巻が発生。家屋の倒壊や電線の断線など、甚大な被害を受けた。

茨城県のみでは、同市内で14歳の中学生1人が死亡、37人が重軽傷を負った。また5月9日現在、827件の建物の損壊が確認されている。

北条地区は本学生などによる学生組織「つくば山麓地域づくり研究会」(通称「チームじやっく」)などと連携したまちおこしが進められるなど、本学との関係が深い地域。6月には本学生と地域の住民によって修繕された「宮清大蔵」で世界のトップフルティス



当日の工学系F棟の使用電力。13時から20時の使用量がゼロだった



6,7面 本紙OBが語るあの日の筑波大
8面 写真で振り返る筑波大学今昔

司馬名誉教授に印国家勲章

経営者育成を評価

本学の司馬正次名誉教授が3月22日、インド政府から「パドマ・シユリ」国家勲章を授与された。同勲章は、文化芸術、科学技術、などの領域で、インドに大きく貢献した人に与えられるもの。同教授は、同国の製造業の発展への貢献を評価され、デリーの大統領官邸で行われた授与式で、パティル大統領から直接メダルと表彰状が授与された。

同教授は1986年以降ハンガリーやアメリカで日本のものづくりのノウハウを現地の経営者や技術者に教えたり、経営幹部を育成する国家プロジェクトを立ち上げ、成果を上げてきた。2004年には当時のインド大統領が製造業の発展の力添えを依頼。2006年、JICA(国際協力機構)が日本側の支援を担当

することで日印両首相が合意し、翌年8月「インド製造業経営幹部育成支援」プロジェクトが始まった。プロジェクトは社長、上級経営幹部、中級経営幹部、中小企業育成に分かれ、日本から特別講師も招かれた。教授はその先頭に立ち、「未来の変化を見つづける社会観察法」「顧客第一主義経営」「仏の三つの目によるリーダーシップ」など、インドの製造業発展に必須な方法論の浸透に努めた。プロジェクトは順調で、この

プロジェクトの中から、同国の貧困層を対象とした簡易型冷蔵庫の開発に成功し、電気電子学におけるノーベル賞とされるアメリカのエディソン賞も受賞した。



パドマ・シユリ勲章を授与される司馬教授

し、学んだことをすぐ応用する人がたくさんいる」と教授は話す。プロジェクトは、今後も継続して行われる。教授は「プロジェクトの参加者が本学を訪れ、大学院生などと直接触れ合う機会があれば」と語った。



4月9日に開催された新歓祭。今年も数多くの団体が新入部員を獲得するため、春の陽射しの下で声を張り上げていた。新歓に携わる学生の多くは2年生。1年前の自分を思い返しながら、今年は先輩として、この場所で新入生を迎える。(撮影・原啓一郎=社会学類)

つくば 歳時記

今年もつくばの春は寒かった。学内では冬向きの服装で花見に興じる姿も見られた。そして少し春らしい気候になったのもつかの間。連休前半の豪雨がやんだかと思えば、後半は雷、ひょう、そして竜巻。市内の被害は甚大で、最後まで油断できないゴールデンウィークとなった▼気を張っていた新入生も緊張が解けてしまったのか、例年連休明けの寝坊や遅刻が増える。我ながら耳が痛い、「初心忘るべからず」。気だるさ、抑うつなどの症状を呈する「五月病」にはくれぐれもご注意ください▼病氣といえは連休中、父の四十九日を迎えた。つくばに引っ越して以来、数えるほどしか会っていない。たことが心残りだ。「親孝行したいときには親はなし」という川柳に初めて共感した。遺骨に布団はかけてやれない▼全国では引き取り手が現れずに地方自治体で処理される無縁遺骨が増加傾向にあるという。驚いたことに身元不明の遺骨よりも、親族が引き取りを拒否する例が大多数だという。最近よく耳にする孤独死も、無縁遺骨も、現代の「無縁社会」の象徴だ▼新しくできた友だちと楽しく過ごしたり、家族や旧友に会うなどのリフレッシュをすることが五月病患者には必要だとされている。梅雨に入る前のこの5月に、人との「つながり」を改めて確認してはどうだろう。

筑波の孔

今年もつくばの春は寒かった。学内では冬向きの服装で花見に興じる姿も見られた。そして少し春らしい気候になったのもつかの間。連休前半の豪雨がやんだかと思えば、後半は雷、ひょう、そして竜巻。市内の被害は甚大で、最後まで油断できないゴールデンウィークとなった▼気を張っていた新入生も緊張が解けてしまったのか、例年連休明けの寝坊や遅刻が増える。我ながら耳が痛い、「初心忘るべからず」。気だるさ、抑うつなどの症状を呈する「五月病」にはくれぐれもご注意ください▼病氣といえは連休中、父の四十九日を迎えた。つくばに引っ越して以来、数えるほどしか会っていない。たことが心残りだ。「親孝行したいときには親はなし」という川柳に初めて共感した。遺骨に布団はかけてやれない▼全国では引き取り手が現れずに地方自治体で処理される無縁遺骨が増加傾向にあるという。驚いたことに身元不明の遺骨よりも、親族が引き取りを拒否する例が大多数だという。最近よく耳にする孤独死も、無縁遺骨も、現代の「無縁社会」の象徴だ▼新しくできた友だちと楽しく過ごしたり、家族や旧友に会うなどのリフレッシュをすることが五月病患者には必要だとされている。梅雨に入る前のこの5月に、人との「つながり」を改めて確認してはどうだろう。

除染に向け、研究進む

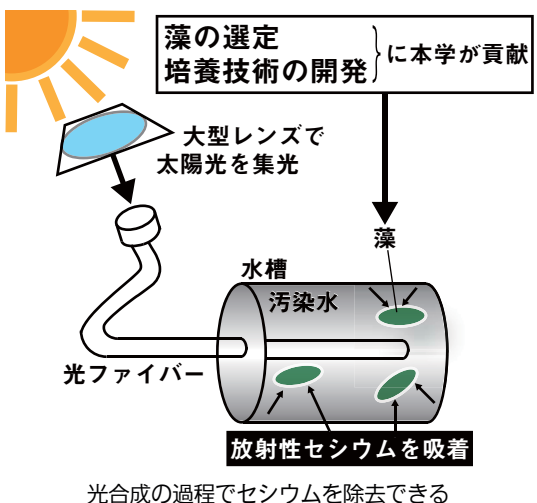
井上教授ら研究グループ、守友教授

新たな除染技術開発

東日本震災の発生以降、福島第一原発事故で広まった放射性物質は、大きな社会問題となっている。多くの研究機関で除染に向けた研究が進められる中、本学でも新たな除染技術が開発された。今後は実用化へ向け、さらに研究が進められる予定だ。

藻類の性質生かし除染

藻類の力で放射性セシウムを取り除く装置の開発を、本学と理化学研究所、慶應義塾大学などの研究グループが進めている。この中で、本学は放射性セシウムを7割以上除去する藻類3種を特定した。開発された装置は、カリウムと間違えてセシウムを取り込む植物プランクトンの性質を利用したもので、海中や水田中の放射性物質を除去する技術の確立を目的としている。

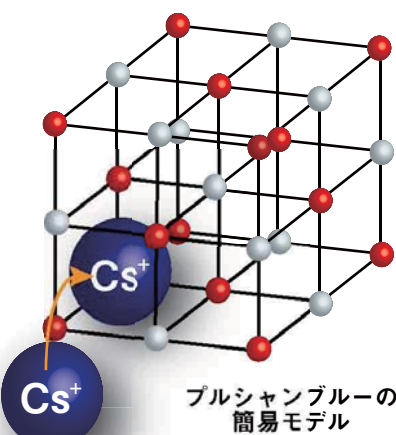


率を測定。理化学研究所が太陽光を効率的に集光する「フレネルレンズ」を開発し、慶應大は、集光システムで集めた太陽光を光ファイバーでプラント内に伝送する藻類成長プラントの試作機を開発した。これらの技術を統合して、水槽に1リットルあたり300ペクレルの汚染水を3リットル入れて実験したところ、3日間で9割近い放射性物質を取り除く成果があった。

染料用いて汚染水処理

セシウムを除去する新手法を、守友教授(数物系)が開発した。染料の一種であるフルシヤンブルーの類似物質を利用することで、水溶液中に溶け込んでいるセシウムイオンを取り除くことができる。この手法を

栽培による土壌中のセシウム除去作業が行われていた。だがヒマワリはかさばるため、作業後の処理が問題となっていた。藻類を用いた放射性物質除去は、増殖速度が速く回収率が良いこと、低コストで藻類を濃縮させられること、作業後の処理が容易なことが利点としてあげられる。今回の研究にあたっては、各分野の垣根を超え、本学の英知を結集させていきたい」と意気込みを話した。



の1まで低下させるなど、高い効果がみられた。これまでのフルシヤンブルーを用いた技術では結晶状態のフルシヤンブルーを、セシウムイオン溶液に投入することが主な手法であった。ところが、この手法ではフルシヤンブルーの表面のみセシウムイオンが取り込まれるため、再度溶出する恐れがあった。守友教授の開発した手法では、フルシヤンブルーの類似物質の原料をセシウム

竜巻、なぜ起きた

今日6日、つくば市付近に甚大な被害をおこした突風について気象庁は翌日7日、竜巻であることを正式に発表した。被害の幅が約500メートル、長さ約15キロと推定され、国内史上最大級となった。

巨大積乱雲が原因

竜巻は主に寒冷前線の通過時に発生する。特に春や夏の季節の変わり目には、冷たく乾燥した空気と暖かく湿った空気が衝突し、発生しやすくなる。同気象台によると、6日のつくば市付近の地表気温は平年を4.8度上回る25.6度。しかし上空の寒気は、約マイナス19度で、その差は44.4度だった。暖かい空気は上へ、冷たい空気は下に向かう性質がある。このような寒暖差の大きい状態だと、激しい対流現象がおこり、大気の状態が非常に不安定になる。このため、積乱雲(入道雲)が発達して竜巻が発生したと考えられる。同気象台のレーダーによ

返し、水の粒は成長する。ある程度大きくなるとひょうとなって落下する。積乱雲は40分ほどつくば市付近に停滞し、その後は北東に進み、夕方頃には海上にはなれた。この日は西日本から東北の広い範囲で竜巻などを引き起こす積乱雲が発生しており、気象庁は東海、関東、東北を対象に相次いで竜巻注意情報を発表。茨城県では12時38分に発表して

ると、現場付近では13時頃、積乱雲は20分程度の大きさまで発達。同時にゴルフボールほどの大きさのひょうが落ちてきたという。湿った暖かい空気が上昇すると凝結して水となり、水滴がさらに上昇すると上空の気温の低いところで水の呼びかけを行うことは難しい。竜巻による被害を小さくするために、今後気

津波避難経路を公開

海洋生物に関する研究や教育を行う本学の津波避難実験センター(静岡県下田市)で4月13日、新設した津波避難経路の公開された。近隣の住民や下田市の関係者など約60人が集まり、実際に避難路を歩いた。

津波避難経路の整備は、近未来の発生が予測される東海地震などに備えるために稲葉一男センター長(教授・生環系)が大学本部に提案。市との話し合いを経て整備を進め、昨年度末に完成した。下田市役所は、当初海抜2分の場所への移転を計画していたが、避難路の津波対策の参考とな

新型は腰補助モデル

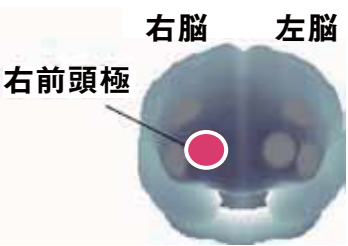
山形大教授(シス情系)が4月5日に新潟県県庁で世界に先駆けて新型ロボットスーツを初披露した。発表されたのはHALの腰補助モデル。HALは、も軽々と持ち上げられ、腰への負担を軽減できる。被災地の重作業軽減を自

介護の負担を軽減

サイボーグ型ロボット。新型モデルは腰に装着して使用し、従来のHALの機能を応用することで、一人分(60kg程度)の物も軽々と持ち上げられ、腰への負担を軽減できる。被災地の重作業軽減を自

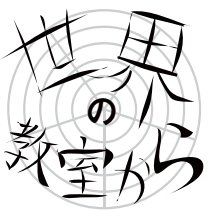
軽い運動で認知症予防 右脳が左脳をバックアップ

短時間の運動を行うことで、高齢者の認知機能が向上することを、征矢英昭教授(体育系)ら研究グループが明らかにした。これまでも習慣的な中強度の運動が認知機能を高めるとされてきたが、短時間の運動でも効果があることが判明したのは世界初。同研究は「たくましい心」を育むスポーツ科学インベーションの一環で、運動を通して脳の発達を自指るかたで、右脳にある右前頭極の活動が盛んになることを明らかにした。



す。今後は認知症の予防につながることを期待される。研究成果は米国の科学誌「ニューロバイオロジー」に掲載された。同教授は本学の学生20人と、つくば市内に住む高齢者16人を対象に実験を実施。文字の色と意味が一致しているかを判断するテストを行い、正答率や判断にかかった時間を測定した。テスト後、被験者は10分間ベダルをこぎ、その後再びテストを行った。その結果、自転車こぎの運動の後では、脳の活動が活性化することがわかった。学生では判断速度が平均50%向上し、左脳の一部が活性化していることが明らかになった。一方、高齢者では判断速度が平均16%向上し、右脳が活性化。左脳の機能をバックアップするかたで、右脳にある右前頭極の活動が盛んになることを明らかにした。

的とした災害用や、運動機能が低下した人や高齢者の動作支援・訓練を目的とした福祉用は既に実用化されている。今回披露された新たな腰補助モデルも、6月から同県内に試験的に導入され、実用化に向けた実証試験が行われる。この新型HALの導入で、介護をする側の肉体的負担を軽減できると期待されている。新型の発表を受け、世界各国からも反響があった。すでにデンマークやドイツ、



サラマンカ大学 (スペイン)

唐澤護

Hola! (オー!)
僕は、昨年の8月からスペインのサラマンカという街に1年間の交換留学で来ています。サラマンカの旧市街は、世界遺産に登録されており、まさに世界遺産の中で暮らしているわけです!

帰った際に、言葉が全く通じず、現地の人と交流ができずに悔しい思いをしたこと。大学の授業はスペイン人と共に受けるので、正直かなり大変です。しかし、授業の雰囲気は日本と異なり、教授と生徒のディスカッション形式が多く、学生の意識も高いので、とても刺激になります。

先月、スペインのイスター休暇にあたるセマナ・サンタを利用して、スペイン南部アンダルシア地方の最南端部にほど近い、ピカン生誕の地でもあるマラガという街に行ってきました。宗教行事の盛り上がりは、スペインの中でも南部に行くほど高くなる傾向があり、マラガとセビージャのセマナ・サンタは特に有名です。



友人とマラガの宗教行事での1枚

期間中は昼過ぎから夜中の3時頃まで、宗教的な行列が街中を練り歩きます。独特の衣装に身を包み、Paso (パソ) と呼ばれる山車を担いだ人たちが、楽団の音楽のリズムに合わせて歩みを進めます。驚くべきは見物人の数です。行列が通る道の両側には常に人だかりができ、最前列には予約席まで設けられていて、見物人の中には行列

異国で触れる比較文化の神髄

宇宙について気軽に討論

第1回 Astro Cafe が、5月1日に3A棟207で行われた。学生生活動団体「Tsukuba Space Cluster (TSC)」によって、お茶やお菓子を囲んで気軽に科学の話題について話し



宇宙に思いを馳せてアイデアを出しあう

当日は学内外から約100名が集まり、和やかな雰囲気の中で宇宙に関するディスカッションなどを楽しんだ。TSCは昨年9月に発足し、宇宙に関するプレゼンテーションやトークなど、宇宙の知識を共有する活動を行う団体だ。TSCの活動紹介の後、宇宙ステーションに関する仕事に就いているゲストによって「今日の宇宙開発」と題したトークが行われた。講演では、自身の仕事内容の紹介、日本や世界の宇宙開発の現状、人工衛星などについて紹介した。

トークの後は、参加者が5〜8人で班を組み、「衛星ミッションを考えてみよう」と題してディスカッションを行った。参加者は現在稼働している人工衛星をヒントに、市場対象やセールのポイントが異なる新たな衛星の役割についてアイデアを出し合った。Google Earthの宇宙版として、惑星の様子を見ることができ「Google Universe」や、大きなディスプレイを設置して広告塔として利用する「超ド級星空間用紙」などさまざまな案が発表され、参加者からは「よめや笑い」が起った。

参加した張野荷さん(情報科2年)は、「宇宙や星について興味があり、宇宙関係の仕事に就きたい」と話した。

「わかりやすく楽しい」
Cafeを開いていき「Astro Cafeは、今後も定期的に開催される予定です。」と語った。

「わかりやすく楽しい」
Cafeを開いていき「Astro Cafeは、今後も定期的に開催される予定です。」と語った。

「わかりやすく楽しい」
Cafeを開いていき「Astro Cafeは、今後も定期的に開催される予定です。」と語った。

Kids University 科学に触れながら学ぶ

地域の子供たちを本学に招待し、最先端の科学や研究に触れてもらうイベント「Kids University」が、4月21日に行われた。多くの親子連れが本学を訪れ、学問の世界に目を輝かせていた。(関連写真は12面)

薬について知る

大学の講義を小学生向けに行う体験授業「元気を守るクソリの科学」では、三輪佳宏講師(医学部)が身近な薬の仕組みについて分かりやすく説明した。講義は「副作用の中には役に立つものがある」「わざと効き目のないくすりをお飲むことがあるか」といったクイズから始まり、その答えを紹介しながら授業が進められた。「自分の身近なところにあるクソリを答え



白衣をまとい、興味津々で顕微鏡をのぞき込む

研究者気分味わう

総合研究棟A107で「科学あそびラボ」が開催された。光や種、日食の不思議コーナーに分けられ、スタッフを中心とした解説が、たくさん親子連れが訪れた。種の仕組みでは紙で種の簡易模型を作って種が飛ばされる様子や、顕微鏡で実物を観察した。希望者には白衣が貸し出され、子どもたちは研究者気分を味わった。

海の生物に触れる

総合研究棟A108で開催された。会場では、貝やヒトデが入った水槽が並べられたほか、中央の小さなプールにはエビやナマコ、小型のサメなどが泳いでおり、参加者が触れるようになっていた。プールでは多くの子どもたちが思い思い生き物に触れたり、興味深そうに眺めたりしていた。参加者の疑問にはスタッフが丁寧に答えていた。

貴重品など盗難

施錠の意識を

本学で財布や自転車の盗難が発生し、学生生活で注意を呼び掛けている。4月12日12時30分ごろ、第三エリアフードコートで、本学生のカバンから財布が盗まれたことから、同課に届けられた。同課によると、学生は座席にカバンを置いておき、食後終わった食器を片付けるため、席を離れた間に被害に遭ったという。また、4月27日20時ごろ、平砂宿舎に住んでいる

教育活動評価され表彰

つくばピア
中学校や高校に赴き、生徒たちと一緒に「性」について考える団体「つくばピア」に、つくば保健所(つくば市松代)と管総保健所(常総市水海道)から感謝状が贈られた。

「性」について考える団体「つくばピア」に、つくば保健所(つくば市松代)と管総保健所(常総市水海道)から感謝状が贈られた。

「性」について考える団体「つくばピア」に、つくば保健所(つくば市松代)と管総保健所(常総市水海道)から感謝状が贈られた。

「性」について考える団体「つくばピア」に、つくば保健所(つくば市松代)と管総保健所(常総市水海道)から感謝状が贈られた。

「性」について考える団体「つくばピア」に、つくば保健所(つくば市松代)と管総保健所(常総市水海道)から感謝状が贈られた。

創刊から300号

筑波大学を

振り返る

1974年に創刊された筑波大学新聞は、今号で300号を迎える。創刊以来、本学の「今」を追いかけ、紹介し、時には疑問を投げかける役割を果たしてきた。新たな節目を迎えた今号では、本紙に関わってきた人々の声を紹介する。(中島佳奈、長島一真、松本果奈(日文学類))



本校移転の過渡期を思い返す



創刊当時を懐かしむ安藤氏

記念すべき初代の顧問を務めたのは、鈴木博雄名誉教授。東京教育大学(以下教育大)でも教鞭をふるい、同大学の移転は本学へと活躍の場を移した。開学して間もない本学を作り上げ、発展させた中心人物の一人である。学生運動以降の大学教育に携わった現状を聞いた。

38年前振り返って

創刊時 顧問

鈴木 博雄
名誉教授

「創刊当時の大学新聞はどのようなものでしたか。当初は新聞部などというものもありませんでした。新聞づくりをしようと学生に記事を書いてもらいました。はじめは、全て手探りの状態でした。」

「新しい大学を創る」

「学生運動が盛んな時代でしたが、教育大での授業はいかがでしたか。」

「学生運動が激しかったころは、全く授業を行えませんでした。朝、学校に行くのが、教授が学生たちにイデオロギーについて話聞されたり、構内に教授が入れないこともありました。」

「しかし1972年の連合赤軍事件が終わってからは、大学紛争の問題は沈静化しましたね。」

「新しい大学を創る上では、特に苦勞されたことは何ですか。」

「筑波大学の理念は、新しく開かれた、国際性のある大学でした。しかしモデルとなる大学は日本にはなく、何を国際性というのか、何と分かりませんでした。」

「当時のつくばでの生活はいかがでしたか。」

創刊当初を語る

「創刊当時の学生の雰囲気はいかがでしたか。」

「筑波大学として開学した直後、キャンパスにいた学生は1000人弱の1年生だけでした。ほとんどが宿舍や下宿で共同生活を送るため、学生同士の距離が近

くのかな雰囲気だったと覚えていました。」

「当時、大学側は学生運動を警戒した対策を行ったと聞きました。学生はこのことについてどう考えていましたか。」

「読者の反応はいかがでしたか。」

「学生には宿舍の各部屋に手渡して配布していたので、制作者と読者の顔が見える関係でした。」

昭和53年度人文卒

安藤 弘一 氏

日通総合研究所勤務

「創刊当時、どのような意見が発信できる新聞を」

「創刊当時、どのような意見が発信できる新聞を」

「創刊の辞」(鈴木博雄)

「買きたい批判精神」「パランスのとれた新聞づくり」

大学文化の創造

その担い手として

「大学文化の創造は、学生一人ひとりの責任と努力によって行われるべきである。本紙記者と対談を通じて、その意義と実践について話を聞いた。」

本紙記者と対談

「講演日より」(レポーター・安藤弘一)

東京工業大学名誉教授の講演会の紹介記事。150名以上の学生が聞き入ったという。

愛すべき数学者

「愛すべき数学者」は、筑波大学で活躍する数学者の紹介記事。彼らの研究と人柄について詳しく紹介している。



歴史に触れる 本学の

2000号の節目

現在、日本弁護士連合会事務所で働く大塚智一氏(平成14年度社卒)は創刊2000号当時の編集に携わった。当時の状況について、語ってもらった。

私が大学新聞の編集部長だったのは、およそ10年前、1999年から2002年までです。当時つくばエクスプレスは開業しておらず、「陸の孤島」の呼び名がまだ実感を持って使われていました。学生のほとんどは宿舎かアパート暮らしのため、終電や終バスという感覚はなく、大学新聞でも、夜中に編集室に現れて原稿を作成し、明け方に帰るとい生活リズムの部員が少なからずいました。

アナログからデジタルへ 大学新聞らしさを求める

に行き、製版された記事や写真を手作業で白紙に貼り付けていたものが、全てパソコン上でできるようにになりました。

その頃は日本中いたる分野でIT化が進められ「ITバブル」と呼ばれた時期ですが、大学新聞でもフィ

に行き、製版された記事や写真を手作業で白紙に貼り付けていたものが、全てパソコン上でできるようにになりました。

当時の新聞を改めて読み返すと、学内のニュースを伝えることはもちろんのこと、学外の出来事を、いか

に行き、製版された記事や写真を手作業で白紙に貼り付けていたものが、全てパソコン上でできるようにになりました。

運動能力や知能の低下などが起きることが分かっていました。

35年前、埼玉県立がんセンター(伊奈町)の研究員として勤めていた林教授は、当時からがん

運動能力や知能の低下などが起きることが分かっていました。

がんの発症や転移をどう抑えたいか。この人類永遠の課題に林教授(生環系)は、長年取り組んできた。そして

運動能力や知能の低下などが起きることが分かっていました。

がんの発症や転移をどう抑えたいか。この人類永遠の課題に林教授(生環系)は、長年取り組んできた。そして

運動能力や知能の低下などが起きることが分かっていました。

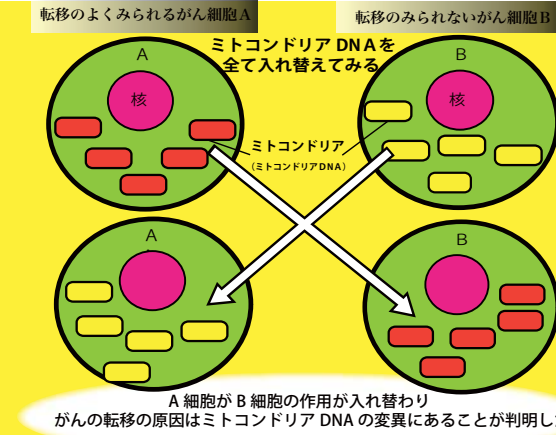
がんの発症や転移をどう抑えたいか。この人類永遠の課題に林教授(生環系)は、長年取り組んできた。そして

運動能力や知能の低下などが起きることが分かっていました。

がんの発症や転移をどう抑えたいか。この人類永遠の課題に林教授(生環系)は、長年取り組んできた。そして

運動能力や知能の低下などが起きることが分かっていました。

がんの転移とミトコンドリアDNA



がんの転移の原因はミトコンドリアDNAの変異にあることが判明した

DNA変異が転移に繋がる 活性酸素の抑制で転移を防止

現在、教授はがんの転移を誘発するmtDNA

現在、教授はがんの転移を誘発するmtDNA

現在、教授はがんの転移を誘発するmtDNA

現在、教授はがんの転移を誘発するmtDNA

現在、教授はがんの転移を誘発するmtDNA

現在、教授はがんの転移を誘発するmtDNA

キックボクサーのプロ資格を取得した 中川祥至君 (情報3年) WHO'S WHO 56

現在も本紙のカラー一面を飾る困み記事。原稿や写真などの編集作業でパソコンの使用が始まった。

昨日、紙媒体のデジタル化の勢いが増している。昔の文獻も、週刊で発行される漫画も、指一本動かせばどこにいても読めるようになった。当然、新聞も例外ではない。

300号を迎えて

時代は移り変わっても、情報発信の需要は変わることはない。10年ほど先には、どのような400号が発行されているのだろうか。

筑波大学自然図鑑 ムカシトンボ 生きている化石と 河川の源流部に棲息し、幼虫生活は7年に及ぶ。このためムカシトンボが環境は極めて良好であることが分かる。

留学生の目



アンナ・スミナ

学部2年生の時に、私は日本に1年留学することになった。筑波大学に

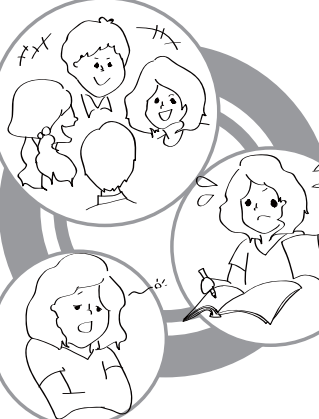
学部2年生の時に、私は日本に1年留学することになった。筑波大学に

学部2年生の時に、私は日本に1年留学することになった。筑波大学に

学部2年生の時に、私は日本に1年留学することになった。筑波大学に

学部2年生の時に、私は日本に1年留学することになった。筑波大学に

学部2年生の時に、私は日本に1年留学することになった。筑波大学に



勉強も友人関係も充実

勉強も友人関係も充実

勉強も友人関係も充実

300号特別企画

写真で見る

筑波大学

「今昔」

今年で38年目を迎えた筑波大学新聞。その歴史を、各号発行当時の写真で振り返る。普段見慣れた大学の、見知らぬ姿はそこにある。(中島佳奈、長島一真、人文学類、鈴木かおる、比較文化学類、加藤茂行、地球学類) 関連記事は6、7面

創刊号

1974年

校舎未完成で開学

「筑波は、開かれた大学です。入学式も広々とした

1973年の第一次オイルショックのため大学施設の建設が遅れ、開学当初4月には校舎もほとんど完成していませんでした。そのため5月の連休前に早めの夏休みとなった。7月に学生生活が始まるも、体育館中央棟の上を1列で歩いた。途中で滑り、泥だらけで宿舎に帰る学生もいたと噂だ。

1973年の第一次オイルショックのため大学施設の建設が遅れ、開学当初4月には校舎もほとんど完成していませんでした。そのため5月の連休前に早めの夏休みとなった。7月に学生生活が始まるも、体育館中央棟の上を1列で歩いた。途中で滑り、泥だらけで宿舎に帰る学生もいたと噂だ。



上：現在の2B棟前と板の通路 右下：青空入学式(1977年) 左下：現在の合宿所前バス停に群がる人々

自動車の海つくば

1985年のつくば科学万博を機に、学内外で整備が進み、1987年に新一般学生との交流を深めることを目的に建設された。各部屋はユニットバス、トイレ、シャワーが備えられ、湯が出るのは15時から22時までだった。



上：完成した1の矢新宿舎 右下：歩道に止まる自動車 左下：東京へ向かう直通バス(つくばセンター)

自動車所有する学生は、当時4割を超え、駐車場不足、違法駐車車の急増が問題だった。1日平均45台が駐車違反のステッカーを貼られていた。

つくばセンターと東京駅を結ぶ直通バスが1987年に開通した。都心の往復が便利になったとの評判

航空写真



右上=創刊号当時。まだ整備が進まず「開かれている」 右下=200号当時。より現在の大学に近づいた 左上=100号当時。建物が増加し、整えられてきた 左下=現在。高い建物が目立つようになった

200号

1999年

狭い、汚い、暗いと思評の学生宿舎のうち、追越宿舎の26・27号棟の改修工事が1999年に完了し、協議に入った。統合に伴い、部屋を5倍の広さとし、設備も各室それぞれにユニットバスかユニットシャワー、空調設備、ミニキッチンを備えた。

本学と図書館情報大学が2000年に統合に向けて協議に入った。統合に伴い、部屋を5倍の広さとし、設備も各室それぞれにユニットバスかユニットシャワー、空調設備、ミニキッチンを備えた。

他学と統合、学群新設



右：改修された追越宿舎 左上：図書館情報大学と統合 左下：ノーベル化学賞を受賞した白川英樹名誉教授(右)

大震災のつめ跡大きく

地震当日は、ライフラインが寸断し、学生生活にも大きな混乱が生じた。コンビニやスーパーからは水や食料が消え、ツボトルやポリタンクを持つイッターなどは給水や避けた人々が長い列を作った。眠れない一夜を過ごした。



上：散乱する図書(中央図書館4階) 右下：天久保公園で給水する人々 左下：平砂宿舎共用棟で眠れない夜を過ごす

2011年3月11日に発生した地震で、本学も大きな被害を受けた。中央図書館では、揺れにより多数の図書が落下・破損した。体芸図書館は、設備に深刻な被害を受け立入禁止。今年5月下旬の再開を予定している。

地震直後、大学周辺の地

第28回 つくば芸術祭 芸術の花 咲き乱れる

スタンプラリーなど新企画も

本学の芸術・文化系サークルが集まり、日頃の成果を披露するつくば芸術祭(主催・筑波大学芸術系サークル連合会)が5月3-6日につくばセンター周辺地区(つくば市吾妻)で開催された。

第28回目となる今回は、「百花繚乱 花薫るつくば」をテーマに、邦楽部やときめき太鼓塾など19の団体が出演や発表、展示を行った。

市民活動センターでは楽器体験、市民ギャラーでは書道や洋服の作品展示が行われた。アルスホールでは4、5日にピアノやリコーダーの演奏会が行われ、多くの人が足を運んだ。

最終日には、アイアイモール前モニュメントプラザで4団体が屋外ライブを行った。津軽三味線倶楽部



無弦塾の三味線パフォーマンス

感想を語った。実行委員長の綿引たくみさん(日田2年)は「今年度は来場者の方に今まで以上に芸術祭を楽しんでもらえるよう、来場者撮影やスタンプラリーなど新しい試みを取り入れた。天気にも恵まれず、中止した企画もあつたが、多くの人が集まってくれてよかったと話した。(関連写真は12面)

山本文彦洋画自選展

洋画家の山本文彦名誉教授の自選展が、学生会館アートスペースで4月3日から6月10日に開催されている。今回の展示会は、山本氏の日本芸術院会員就任を記念するもので、代表作8点を展示している。日本芸術院会員就任は、芸術界での最高栄誉とされる。

展示では、山本氏の初期から現在までの作品の変遷を見ることが出来る。初期の作風は静物を幻想的に描くもので、1971年には50歳未満の新人洋画家に贈

られる「安井賞」を受賞している。近年の作品は、叙情的な人物表現を取り入れている。

作品を鑑賞した城野紗貴さん(芸専4年)は、「山本氏の作風が大きく変わってきているのが興味深い」



「巖谷」に見入る来場者

復興祈念アート 小学生とともに絵を制作 復興への思い込める

東日本大震災の復興支援活動を行う本学の学生団体「Tsukuba for 3・11」が、大洗町の小学生らとともに「復興祈念アート」を製作した。

この活動は、3月25日に大洗町商工会が主催した「天洗祭」の海祭フェスタ



復興への祈りをアートに込めて

の二環として行ったもの。同団体のメンバーの吉井玲香さん(平成23年度芸術卒)らが地下となる絵を制作し、現地の子どもたちがフェルトなどの素材を魚介類の形に切り取り、この絵に貼り付けることで一枚の絵を完成させた。復興を祈るメッセージも多く書き込まれるなど、被災者と同団体のメンバーの復興への強い思いが託された。今回制作した絵は、震災を忘れず語り継ぐことに加え、この絵を見た人に「がんばろう」という気持ちを与えられるように」と、現在同市立学生会館に展示されている。

吉井さんは「みんなの思いで、すてきな大洗町をつくりたい。一人一人の力が集まればきっと大きな力になる」と語った。

本紙4月9日付7面掲載の新生名簿に追加記載があります。

理工学群応用理工学類
◆栃木県
安達学(國學院大學栃木)

催事

NHK生放送

NHK水戸開局70年「ニュースワイド茨城」公開放送が5月24日(木)に学生会館講堂ホワイエで行われる。「ニュースワイド茨城」は、NHK県内総合で平日18時10分から放送している県内ニュース番組。司会 は芳賀健太郎、今野美由紀。

観覧無料、申し込み不要。放送時間は18時10分から19時まで。お問い合わせは、NHK水戸放送局029-232-9885(平日9時30分-18時)

気象講演会

公開気象講演会「地球温暖化問題における科学者の役割」が5月26日(土)につくば国際会議場大会議室101(つくば市竹園)で行われる。一般市民の方々に気象に関する最近の研究成果などについて分かりやすく解説することが目的。本学の田中博教授(生環系)をはじめとして、気象学会の6人の科学者が講演し、パネルディスカッションを行う。

参加無料。13時30分から17時まで。

ジャグリング

ジャグリングサークルSheepの第1回春期公演が5月17日(木)に学生会館ホールで行われる。入場無料、入退場自由。開演は18時、開演は18時30分。

吹奏楽団講演

本学の吹奏楽団の第67回定期演奏会が6月16日(土)にノバホール(つくば市吾妻)で開催される。

今回は3部構成で、それぞれ樽谷雅徳作曲の「マリヤの7つの悲しみ」、ロジャーズの「サウンドオブミュージック」、ショスタコーヴィチの「交響曲第5番より4楽章」などが演奏される。

前売券が500円、当日券が700円、高校生以下は無料。15時30分開場、16時開演。

原点



宮本陽一郎

20世紀アメリカ文学を専門にする私の原点がバロック音楽にあるという奇異に響くかもしれないが、振り返ってみると学生時代に浴びるように聞いた古楽演奏のレコードが、現在の研究の出発点になったように思える。

とくに先日口づかった

バロック音楽から始まった研究 時代の文化から文学を探る

「鐘」で聞かせる、ピアノをいささかけなないバロック・ヴァイオリンの音色は、「ヴェルサイユ」や「ヴァイオリン」について私たちが持っていた先入観を、一

音で粉々に吹き飛ばすほどに、耳障りで挑発的であった。優美だった。古い音楽を、厳密にその時代の楽器でその時代の演奏法で再現して、いささか色付けしないという気難しい歴史主義が、未知との遭遇の衝撃をもたらしているというのはいささか

なかつたことで、このレコードをかけるたびにそのときの戦慄が戻ってくる。

その後レオンハルトやアーノンクルの古楽運動の成果が、バロック音

インドでの活動を報告 風を飛ばすイベントも

Wall Art Festival in Indiaの教室の壁をキャンパスEstival in India報告会@つくばを5月18日(金)、3A棟202で18時30分から開催される。インドのピハール州ジャータ村にある学校

の教室の壁をキャンパスEstival in India報告会@つくばを5月18日(金)、3A棟202で18時30分から開催される。インドのピハール州ジャータ村にある学校

大学独自報告会が行われているのは本学だけで、今年で2回目になる。インドホランティアスタッフとして参加した学生を中心に、インド在住のスタッフも参加。今回は芸術祭の開催理由をはじめ、実施への道のり、当日の様子などを報告する。また、ダンサーやシンガー

ソングライターによるパフォーマンス披露、アーティストやモデルによるトークショーも行われる。当日16時から、虹の広場で学生の夢を描いた150枚の風を空に飛ばすイベントも行われる。風作りのワークショップは5月7、9、11、14、16、18日の昼休みに3A棟入り口で行われる。

学生会館書籍部ベストセラー

1	1Q84 book1 前編	村上春樹/新潮文庫
2	1Q84 book1 後編	村上春樹/新潮文庫
3	公務員試験 速攻の時事	実務教育出版
4	聖女の救済	東野圭吾/文春文庫
5	舟を編む	三浦しをん/光文社

第1位、第2位には「1Q84」スポーツイラストレーターであり、同時に暗殺者の顔をもつ主人公の物語と、予備校教室で小説家を目指す主人公の物語が交互に繰り返される。

また3位には公務員試験対策本もランクイン。

教科書販売まもなく終了。TOEIC攻略本、各種取り扱い有り。

